

ブロッコリー黒すす病の耐性菌に注意！

本所が実施した巡回調査の結果、本県全域のブロッコリー栽培圃場において *Alternaria brassicicola* によるブロッコリー黒すす病の発生量が増加していました。

また、SDHI 剤に対する耐性菌が高頻度で確認されており、今後さらなる発生拡大が懸念されます。SDHI 剤による防除を行っても発生を認める場合は、以後同系統剤の使用を避け、下記で推奨する薬剤を参考にし、防除対策の徹底をお願いします。

●黒すす病の生態

本県において、本病害は *Alternaria brassicicola* という糸状菌が主な病原菌であり、アブラナ科野菜（キャベツ、ハクサイ、ダイコンなど）に対して病原性を示します。

症状としては、初めに下葉に小さな黒褐色の斑点が現れ、病徴が進行すると輪紋状の病斑となり、周辺が黄化します。花蕾では黒色小斑点を形成し、黒色のカビが生じて腐敗するため著しい品質低下を引き起こします。（図1）

発病適温は20～25℃であり、病斑上に形成された胞子は空気を介して伝染するため、強風や降雨の後は発生が助長される可能性があるため、注意が必要です。



花蕾

花蕾拡大図

葉

図1. 黒すす病の症状（花蕾では黒色小斑点を形成して腐敗し、葉では黒褐色の小斑点が生じる。病徴が進展すると輪紋状の病斑となる。）

●防除対策

- (1) 育苗中は過湿状態になりやすいため、通風や排水を良好に保つようにしてください。また、収穫終了後、被害残渣を速やかにすき込んでください。すき込むことで、付着した菌の密度を低下させることができます。なお、残渣が地表面に出ない程度まで十分に土中にすき込むようにしてください。
- (2) 本県ではSDHI 剤（FRAC: 7）の薬剤（表1）に対する黒すす病耐性菌の発生が報告されているため、SDHI 剤による防除を行っても発生を認める場合は、以後同系統剤の使用を避けてください。

表 1. ブロッコリーに登録のある SDHI 剤（登録内容は令和 8 年 2 月 1 日現在）

農薬の名称	適用病害虫	適用作物名	使用方法	FRAC コード
アフエツフロアブル	菌核病、黒すす病、根朽病	はなやさい類	散布	7
シグナム WDG	菌核病、黒すす病、べと病	はなやさい類	散布	11, 7
ケンジャフロアブル	菌核病、黒すす病	はなやさい類	散布	7
パレード 20 フロアブル	菌核病、黒すす病、苗立枯病	はなやさい類	散布、灌注	7
ベジセイバー	菌核病、黒すす病、べと病	ブロッコリー	散布	7, M5
カナメフロアブル	菌核病、黒すす病	ブロッコリー	散布	7
カンタスドライフロアブル	菌核病	ブロッコリー	散布	7

(3) 黒すす病に適用がある QoI 剤（FRAC:11）とその混合剤（表 2）では、今のところ本県では耐性菌の発生は確認されていませんが、耐性菌発生リスクの高い剤に分類されているため、1 作期に 1 回、初発時の少発生段階での使用に留めるようにしましょう。

(4) 本病害に適用を有するジオゼット水和剤（表 2）、または、本病害に対して適用はありませんが、セイビアーフロアブル 20 を菌核病に対して使用している圃場では本病害の発生が少なくなることが確認されています。花蕾での発生を抑制するための防除適期は、花蕾形成期頃となっていますので、葉での発生が確認される圃場では、予防的に防除を実施しましょう。

表 2. ブロッコリー黒すす病に登録があり、県防除指針に採用済み（採用予定を含む）の QoI 剤（混合剤を含む）、およびその他の系統剤（登録内容は令和 8 年 2 月 1 日現在）

農薬の名称	適用病害虫	適用作物名	使用方法	FRACコード
アミスター20 フロアブル	べと病、黒すす病、菌核病	ブロッコリー	散布	11
ファンタジスタ顆粒水和剤	黒すす病、菌核病	はなやさい類	散布	11
スクレアフロアブル	黒すす病、菌核病	ブロッコリー	散布	11
メジャーフロアブル	べと病、黒すす病、菌核病	ブロッコリー	散布	11
シグナム WDG	べと病、黒すす病、菌核病	はなやさい類	散布	11, 7
ジオゼット水和剤	黒すす病	ブロッコリー	散布	19

農薬はラベルをよく読んで使用しましょう

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichuboj/index.html>

